

ちにはおだやか （表題は原文のまま）

梅色をした赤い太陽が、その故郷の海から、白い空にのぼる

太陽の光の跡が、こどもをかかえ、鋼でできた女（1）にからまる

女は、死を、重たく引きずっている：自分の息子と「リトル・ボーイ」

その他の二機に付き添われ、昇る太陽を超えて、西に飛翔する

それは、太陽を支える真の光の祝日だった、白い不死身の光（2）

西の山の上、古い世界の隅に、昔輝いた（3）

光は、死に重く押しつぶされ、見上げるのは、3人の息子（4）

彼らは、光が立ち上がるのを見た、二人の老人に伴われて（5）

空の女は、胸を割き、死を産み、立ち去った

その朝、輝いていた地上の街は、かれらの前で変容した

どんな布さらしでも、それほど白くできないし、赤く染められないほど

リトル・ボーイは、落下し、梅の花の上、空中で十字架刑を執行した

彼の福音が告げられた 地に平和、人々に善意

そして無実な子たちが、ふたたび、そのために死んだ

刀は折れなかったが、無垢の子供たちは砕かれた

山々は、主の前で、蠟のように溶けた、男たちの顔も溶けた

（しかし、我々は、ただ命令にしたがっていただけ 狂信者と闘っていたのだから）

その王国に力と栄光が照射された

桜の枝が、太平洋に血を流した、沈黙から沈黙へ

[Type here]

幼い女の子の目は、ガラスの破片だらけ 父親の黒い手が、取りだす

自分の母親を押しつぶす破壊に気がふれる 大柄な兵士の写真

エジプトからの脱出を預言した光は、エルサレムから導く

以前は、3人だけだったが、あの日、大勢が山へと導かれた (6)

雲の柱、白い、赤い、そして、白い火の柱

ゆるしてください 私たちをゆるしてください

数えきれない人びとにおいて、私たちはキリストを十字架につけた

憐れみの主 Domine pie

涙の日 diei lacrimosae

彼らに安息を与えてください dona eis requiem

ゲイブリエル・ブランシャード

1. エノラ・ゲイ 操縦士の母の名前
2. 8月6日は、ご変容の大祝日 詩全体をとおして、原爆とご変容のイメージが重なる
3. 古い世界 アジア大陸 端はパレスチナ
4. ご変容の場にいた使徒ペトロ、ヤコブ、ヨハネ
5. 二人の老人は モーゼとエリア
6. 以前は、3人の使徒が、ご変容を見た

翻訳 ベリス・メルセス宣教修道女会 シスター弘田しずえ

[Type here]